

東海

No.3103

15.03.18

国土交通労働組合
東海建設支部
教育宣伝部

賃上げ署名に
「協力」を！

3.18 春闘期局長交渉実施

局長「11割に『賃上げの場がある』」



局長の姿勢を追及する建設支部執行部

東海建設支部は三月十八日、春闘期における賃上げ要求と、四月期人事に関する局長交渉を実施しました。交渉で私たちが求める二万円の賃上げについて局長は「要求額について言う立場ではないが、賃金に対する思いは伝わった。私としては職員が良くなることを望んでいる。人事院とは機会ある毎に話をしている」と回答することにどまりました。

一五春闘

賃金要求において東海建設支部では、国公労連に結集し二万円の引き上げを掲げ今春闘期の運動を展開してきました。安倍政権は民間企業には賃上げを要請し、自動車大手などはそれ

に應える動きを見せています。一方公務の職場では、四月から「給与制度の総合的見直し」として約二%引き下げられます。そのため二二〇〇名の職員をあずかる局長の考えを追及したところ局長は「賃金に対する思いは伝わった。賃金を決めるのは人事院で私が要求額に対して何か言う立場にはない。しかし、職員が良くなることを望んでいるし、出来ることはやっていきたい」と回答しました。また、人事院への働きかけを質したところ「人事院とは機会ある毎に、賃金のみではなく色々話す事がある。これまでも言ってきたし、今後とも変わらない」と従前の回答と変わらず、マニュアル的な回答にとどまりました。

さらに支部から「二%も下げられると士気にも影響する。また地域間格差が最大で一六%にもなり、人事管理上の問題ではないか」と指摘し、局長は「組織の活力から非常に重要なこと。本省に話をしていきたい」と私たちの意見が本省へ伝わる回答は行いました。

期間業務職員の 処遇改善はかれ

期間業務職員の処遇改善についても「期間業務職員の皆さんは私たちの職場を下支えしてくれている。事務所長が採用し、局長が給与を決定しているため、当局の努力次第で賃金など改善が図れるはず。処遇改善への道筋を示せ」と当局を追及しました。

これに対し大西調査官は「期間業務職員の方には事務補助で努力してもらっている。処遇改善は重要な問題と認識しており、順次改善しているがすぐに進めない。職場の実情は本省に話をしていく」とこれまでの回答を踏襲する程度の回答にとどまりました。



支部の話を真剣に聞く地整当局

四月期人事の 問題点を追及

東海建設支部はこれまで、誰もが六級、最低でも五級で退職できるように、人事での処遇改善をうたったえてきました。具体的には、五〇歳代の四級係長・専門職層を五級ポストへの任用を求めてきました。しかし内示状況を見ると、四級で定年退職を迎える方や五〇歳代後半の専門職での横滑りが多く発生し課題の残る人事となっています。四級で退職すると、国家公務員の平均的な退職金には届きません。結果として四級で退職させるといふことは、当局としてそのような認識を持っていない事なのか、疑問が残ります。



当局「ブロック内人事配慮した」

遠隔地は5級以上でブロック内では4級か!?



当局を追及する芝田委員長

女性登用の更なる 拡大をはかれ!

当局は一月に行った局長交渉でも「処遇改善を念頭に人事を行う」と回答していますが、ごくわずかにとどまっており、今回の四月期人事は不満の残るものとなりました。

女性職員の処遇改善についても同様、任用についてはこれまででない数にはなっていますが、内部登用・内部昇任させず、広域移動可能な職員を優先して昇任・登用させています。

これらについて当局の姿勢を改めて問いたましたところ、「人事の基本はあるものの、皆さんが言われる地域防災人事や処遇改善を念頭にやっている」と回答しました。しかし当局が言う基本とは「ブロック内で異動する人は四級で、遠くへ飛んでいく人は五級や六級

にあげていく人事」でしかなく、その基本姿勢は職員が減っている今でも変えてきていないのが実情です。そのことは団交の場で大西調査官が「(各地域での)職員構成が均一ではないのでバランスが悪いという要因がある」と回答している

三重庁舎新設するのか?

総務部長問題発言で交渉紛糾!

今回の四月期異動に伴う宿舎貸与において、ある事務所では近隣で貸与できる宿舎があったにもかかわらず、副所長の独断で遠方の宿舎しか入居できないと回答していることが判明しています。これまで当局は丁寧に対応すると回答してきたことが、結果的に組織的対応となっていない事が露呈しました。

このことについて改めて局長の姿勢を問いたましたところ、局長からは「住むところがないと仕事は出来ない。色々なケースがあるが、最善は尽くす。地域防災を担う職員には、なるべく近いところにした方がよ

ことからわかります。支部では、五級で退職できる環境を職場で見えるようにしていくことが重要と追及し、局長は「変えていきたいという気持ちはある。分かって頂けないことは残念だ」と回答しました。

い」と回答しています。

また、三重河川国道は庁舎の耐震改修がされています。せんし、計画も未確定です。テックフォースやリエゾンなど外向きの防災体制はできていても、足下の事務所が倒壊しては目も当てられません。しかし総務部長が「順番にやっていく」、「調査はしている」とやっているかないことをやっているかのように発言したため交渉が紛糾、組織的対応のまささが伺えました。

国民の負託に應えるためにも早急に対策が必要ですが、労使交渉で言及する事が自体が残念でなりません。



回答する八敏局長

空きポスト 六〇前後か

四月期人事により、空きポストが全体で六〇前後発生する状況です。空きポストとなった係長はモチベーションの低下が懸念されますし、出張所併任となった専門職などは人事評価はどのようなにするのか、大きな問題です。局長が発言してきた地域の期待にこたえられる体制づくりからはほど遠いものになっていきます。このことについて指摘すると、局長は「事務所・出張所に迷惑をかけて申し訳ない」と心苦しい思いを述べるとともに「定員確保については今後も努力する。カバーできるよう事務所で考えてもらうが、局としても努力したい」と回答し交渉を終えました。